

第12回 建設産業戦略会議 議事概要

日 時：平成23年6月23日（木）14：30～15：30

場 所：中央合同庁舎3号館 4階幹部コーナールーム

○ 冒頭、大臣から、「地域において重要な役割を担う建設産業の位置づけについて、是非一つの方向性を出してもらいたい」旨の挨拶があった。

○ とりまとめ案について審議を行い、委員から以下のような発言があった。
(全般)

- ・建設産業政策2007という構造改革の提言を軸に、地方の疲弊への危惧などその後の変化を加えて当面の政策としてとりまとめたもの。

(地域社会の維持)

- ・小規模な企業の利益率が非常に低いが、地方圏においては企業の小規模化が進行。また、建設機械の保有台数は減少傾向。これらにより地域維持事業の実施が困難化しており、多くの自治体が将来的な懸念を表明。
- ・新規投資が減少し余裕がなくなる中で、以前のようにボランティア的に地域維持事業を実施するには限界がある。複数年契約や、小規模化する中で何社かグループになって実施してもらおうなどの取組を進めるべき。

(保険未加入企業の排除、重層構造の是正)

- ・技能者労働者を下請化したり法定福利費を負担しないことにより経費削減が行われ、処遇が低下する一方であり、今回、保険未加入企業の排除という踏み込んだ提言を行っている。重層構造については、様々な手段で簡素化が図れる。

(技術者データベースの整備及び業種区分の点検について)

- ・技術者の実績をデータベースとして整備し、経験を積んだ技術者が活躍でき、かつ、法令上定められた技術者の配置の確認もできるような仕組みの実現に尽力してほしい。業種区分については、更に議論を深める必要。

(海外展開支援の強化)

- ・30年間、海外受注高は殆ど変化していない。国際市場と国内市場のメカニズムの違いが大きな要因。国際ルールでプロジェクトを試行するなどして、経営層のリスク管理に関する意識改革を進める必要。

○ とりまとめ案が了承され、座長から大臣に手交された。